

# 甲状腺穿刺細胞診の実際と 診断困難例への対処

甲状腺穿刺細胞診は診断精度が高く、甲状腺結節性病変の術前診断には欠かせない診断法である。その高い診断精度に到達する最も重要な要素は細胞診断能力ではなく、穿刺法・塗抹法である。本講演では、甲状腺穿刺細胞診の適切な穿刺法、最適な塗抹法を解説するとともに、診断困難例に如何に対処すべきかを述べることにする。

隈病院 病理診断科科长

**講師**                      **廣川 満良 先生**  
(ひろかわ                      みつよし)

## 略歴

昭和53年 川崎医科大学卒業、附属病院研修医  
昭和59年 川崎医科大学人体病理講師  
昭和63年 川崎医科大学救命救急部助手  
平成2年 川崎医療短期大学臨床検査科助教授  
平成10年 川崎医療短期大学臨床検査科教授  
平成11年 徳島大学病理学第一助教授  
平成18年 隈病院病理細胞診断部部长  
平成22年 同病院病理診断科科长



**日時：2019年10月21日(月)18時～19時**

**場所：福島県立医科大学11号館 第2臨床講義室**

司会：橋本優子 先生 (病理病態診断学講座)

**参加無料／事前登録不要**

- ◆ がん治療に携わる医師、メディカルスタッフ及び、患者様、一般の皆様を対象に公開セミナーとして開催されます。
  - ◆ 本セミナーは、『東北次世代がんプロ養成プラン』事業の一環となっています。
  - ◆ 本学大学院生は、大学院授業要綱で規定する共通必修科目(規定の8)に該当します。履修票を忘れずにお持ち下さい。
- 【お問い合わせ】 福島県立医科大学 教育研修支援課 TEL:024-547-1095 E-MAIL: ganpro@fmu.ac.jp  
【次回予定】 2019年12月17日(火) 18時～19時 / 福島県立医科大学11号館 第2臨床講義室  
(講師)神奈川県立がんセンター 消化器外科部長 大島 貴(おおしま たかし)先生